



北のシュプール

第506号

発行 北海道勤労者スキー協議会機関紙部 編集責任者 金濱 茂
 札幌市白石区平和通3丁目北 3-13-202 tel&fax:011-784-3272 郵便振替 02700-7-48231
 ホームページ: <http://www.wsah.info/> e-mail: wsaj.hokkaido@gmail.com

2025～26シーズン始動！45周年を前進の中で！ 臨時理事会開催される ～担当クラブ・専門部体制案などを協議～

会員の皆様、猛暑のなかいかがお過ごしでしょうか？

さて、第24期新役員体制にて、7月17日に第1回常任理事会、そして7月26日に臨時理事会を開催し、クラブとの連携や専門部体制案等について討議を重ね、また、道の各種行事については実行委員会形式にて、行事成功のため広く会員の協力を求めて実施することを確認しました。

会員の要望を聞きながらクラブ活動を進め、平和とスポーツを考えながら、みんなで力を発揮して45周年を迎える準備も進めて行きたいと考えます。

★担当クラブ・・・日常的に連絡を持ち、その活動を常任理事会・理事会へ反映することを目的とします。

常任理事	担当する理事	担当するクラブ
三浦裕子	山崎雄二、齋藤進一	札幌スキーフレンド
金濱 茂	大野祥子	ジョイフル
五十嵐佳葉	表山千春	フラヌイ、キャンターSBC、釧路たんちょう
鵜野富美子	近藤博次	函館ナチュラルリスト
	岩澤史朗	札幌グロウ
	前橋恵美子、小野瑤子	羊ヶ丘スラローム、ナイスミドル
	中井哲也	オフピステ
小野寺秀子	塩野谷勝子	江別フリーダム、琴似ステップ
西飯弘行	村中英雄、板垣尚美	岩見沢ホワイトフレンド
長谷川尚子	齊藤友子、田代敏宏	スカディ
三浦 学	羽川隆雄	ぎゃろっぷ、ゆきうさぎ
渡邊公平	山口くに子	北のメルヘン
	佐藤久輝	大平原

★24期専門部体制・・・部会を開催し、方針に基づき活動計画を立てます。

事務局

事務局長 金濱 茂 部員 齊藤進一・山口くに子

専門部

	<部長>	<副部長>	<部員>
・組織部	西飯弘行	岩澤史朗	
・財政部	金濱 茂	大野祥子	
・メイト部	鵜野富美子	前橋恵美子	
・安全対策部	西飯弘行	村中英雄	小野瑤子
・機関紙部	金濱 茂	五十嵐佳葉	
・教育部	三浦 学	小野寺秀子	板垣尚美、近藤博次、佐藤久輝、羽川隆雄、長谷川尚子
・技術部	五十嵐佳葉	渡辺公平	山口くに子
・スキー学校部	石川芳昭	山崎雄二	佐藤久輝、田代敏宏、藤井隆幸、三浦 学、宮腰 大
・競技部	大野祥子	河村真治	表山千春、齊藤友子、中井哲也、築田恵美子
・山スキー部	山本宏幸	塩野谷勝子	大塚義孝、立岡一男
・スノーボード部	金濱 茂	那須野憲悟	鵜野富美子、大橋多津
・スポーツ連盟担当	島崎徳明理事長、小野寺秀子理事		

*** 永い間おつかれさまでした ***

会長退任にあたって 島崎 徳明



第24回総会をもって任期満了となりました。道スキー協とのこれまでを思い起こすと1986年の1月26日にクラブを作り、新規加入してから40シーズンになります。「雪上の限りなき自由」を求めて、クラブ名をフリーダムとしました。所属してからこれまで雪上に2,170日通っています。加入したばかりの5月に月山の中央研修会に誘われて参加、6月6日に旭岳で滑り、翌日の旭川での臨時総会に出席しました。スキー協の事を何も知らないままに理事に選出されて、常任理事として道スキー協50クラブ、1000名の会員を目指しての活動に参加することになりました。スキー協が掲げる「早く、楽しく、安全にうまくなる！」にひかれての事だった気がしていますが心もとない話です。楽しいスキーをどう広めるか、初級指導員が一人増えると三人の会員が増えると指導員養成に総力を上げていた時期でした。最盛期の会員は1300名、指導員は400名を超えていて、カムイリンクスでのフェスティバルは2泊3日で230名以上が集まりました。

スキーが人気のスポーツであった時期でもあり、旭川、釧路、帯広、函館、稚内、北見など全道各地での養成、研修等に行っていました。とても熱い心でスキーを広めることに全力集中の大先輩たちに少しでも近づこうと、スキー場通いをしていた記憶があります。

残雪を求めて、夏の旭岳に北鎮岳、赤岳や黒岳、北大雪など、ただ楽しいだけでスキーを担っていた事が昨日のようです。スキー大好き人間の結集に指導員が果たした役割はとても大きなものがあります。初級指導員の養成にさらなる力を集中することが急務かと思えます。

大自然の雪面は誰にでも等しく解放されています。「いつでも、どこでも、誰でもがスポーツを！」掲げて、これからも楽しいスポーツ、とりわけスキーを続けます。どこかでお会いしましたらよろしくお願いします。

これまでスキーの普及に力を尽くされて来たクラブ、会員みなさんに大感謝です。ありがとうございました。道スキー協のさらなる飛躍を願って退任のあいさつといたします。

副会長退任にあたって 立岡 一男



6月に開催された第24回総会で副会長を退任しました。長い間、多くの皆さんにご協力を頂き感謝いたします。

1982年3月、ニセコアンヌプリで初級指導員検定を受けたのがスキー協との出会いです。この時、長尾全国理事長の長く格調の高い講義を受け感動したことが、その後の活動の原点となりました。それに比べて、実技の種目は「谷開き」「引き踏み」等、今まで経験ないもので面喰いました。講義内容は、初めて耳にする難解なもので十分理解できたとは言えませんが、のちのち「もっとスキーを楽しみたいなら組織しなさい」ということと理解しています。

1984年8月、事務局長に就任し2005年6月まで21年間務めました。自分に務まるか大変不安でした何とか活動できたのは、①景気が良く、スキー人口が多かったという時代状況、②天真爛漫な鈴木初代会長、熱くまっすぐな今沢理事長、深く広い懐の大塚二代目会長、スキー技術・指導法研究に熱心な中浦技術委員長他個性豊かな先輩たちの励ましがあったからです。

この間で最も印象に残りエネルギーを費やしたのは、1994年に発行された『スキー教程』をめぐる論争です。この混乱を乗り越える過程でスキー技術とその発展、指導法がどのように関わっているのかを深めることができました。初級指導員検定の時に直感的に感じた「滑り方より組織」が事態収拾の手助けになったのではないのでしょうか。しかし、スキー技術・指導法の問題は指導員制度とも複雑に関わっています。ちなみに、新体連（現新日本スポーツ連盟）は、1975年第10回総会で「連盟の技術問題にたいする基本的な態度として、さまざまな成果を吸収してさらに発展させるようにし、技術的な一つの指導法のみを絶対化し、それを連盟が組織的に固定し他の方法を排除するようやり方はとらない」と決めました。私たちの無意識の奥には、日本の伝統芸能にある「流派」の残滓が残っているのではないのでしょうか。

20年間の担当理事を終えて思うこと

田附 豊(82歳)



2026年度の総会で理事を退任しました。2003年度に理事になり主にスキーフェスティバルを担当して23年間、皆様のご協力のおかげで無事終わることでできてほっとしています。これも道スキー協の役員の方々、所属スキークラブ(転勤の関係で岩見沢WFSC、フラヌイSC、江別フリーダムSC)の仲間の皆様のおかげと感謝申し上げます。

一番の思い出は、2005年に当時富良野のフラヌイSCに所属していた時、フラヌイの高橋秀雄会長(当時富良野スキー場のロッジ望峰のオーナー)やクラブ員、地元ホテルの関係者、富良野に在住しているかつての名スキーヤーの方々の協力でスキーフェスティバル(SFES)を開催できたことでした。前年までは歌志内の素晴らしい「かもだけ国際スキー場」でしたが、残念ながら宿泊人数が60名と少なく、希望者全員を受け入れることができなく、何とかしてもっと収容力あるスキー場をと考えていました。

この時に地元富良野のワールドカップを開催するほどのスキー場を何とか安価で利用する方法はないかと、当時富良野商工会議所の役員をしていた高橋秀雄会長の手づると、さらに道スキー協からは当時の永山隆繁副会長(故人)・島崎徳明前会長・但馬彰元事務局長を動員してホテルベルヒルズなどと交渉した結果、1泊2日7,800円(税込み)、リフト券2日券5,000円で契約し、参加者は170名ほどでした。

このスキーフェスティバルから20年間、コロナ禍で3年間のブランクがありましたが、どんな困難にもめげず、スキーフェスティバルの歴史を積み上げていただいた道スキー協の皆さんを誇りに思います。

さて、現在の気候変動とロシアによるウクライナ侵略、イスラエルによるパレスチナへの爆撃、倫理とバランスを欠いた米国のトランプ大統領などの振る舞いが世界の平和を脅かしています。私たちスキーヤーがこれらの問題行動に関心を持ち、これ以上の気候の悪化と世界の平和を維持する努力を、国連を中心に解決する方策を作ることが求められています。雪と平和がなければスキーをすることができません。

スキーフェスティバルの夜の交流会での、今は亡きフラヌイスキークラブ 田中博行さんからのメロンの抽選会ではメロンの獲得を巡っての熱いジャンケン大会は、「すさまじいオジサン・オバサンの迫力に圧倒されたシーン」を良き思い出に、道スキー協のこれからの発展をお祈りして理事退任のあいさつとします。

最後に金浜事務局長、オブピステ(山スキー)石塚將則さんのご支援に感謝します。

石川新副会長紹介

副会長になって スカディSC 石川芳昭



私が道スキー協の役員になったのは、2003年でした。当時スキーメイトを担当していた今沢和子さんからスキーメイトの担当として常任理事を依頼されたのが、始まりでした。スカディでは役員はしていましたが、それほど意識はなかったもので、言われるままに会議に参加するという感じでした。月1回の会議も、事務所が隣りだったから、行きは1時間、帰りは1時間半くらいかけた車の運転は大変でした。

スキーメイトの仕事は、実務的なことは今沢さんがしてくれていたもので、それほど忙しくはなかったのですが、全国からスキーメイトの通信員制度が提起され、北海道ブロックの担当者として私が北海道の記事を送る係となりました。近くに雪なし県でも活動している県に比べると、こんなに活動の良い条件がそろっている北海道の活動を知らせるいい機会だと思い、二年間にわたって、夏季クラブ交流会、スキーシンポジウム、常設スキー学校、スキーフェスティバルの4大行事や12月の上・中・初級指導員研修会、2月の指導員検定会、3.11東日本大震災で避難されていた子供たちを対象にしたスキー学校、スカディクラブの小学生冬休みスキースクール等の記事と写真を送りました。

2015年からは、立岡さんに代わって副理事長となりました。2009年からは、クラブ対抗スキー競技会や常設スキー学校にもかかわるようになりました。常設スキー学校は、手稲ハイランド三日間、藻岩スキー場の二か所でやっていたから、体調に気を付けながら、責任者として全力で取り組んできました。このかかわりの中で、多くのスキー協の仲間とのつながりができたことは私の喜びでした。副会長となり、本来なら、重要な仕事分担はないものと思っておりましたが、引き続き常設スキー学校部長を引き受けることになりました。今年は、藻岩山スキー場の再開発が

きまり、北海道エネオスの子会社の北海道スクエア K.K がロッジ新築（2027年12月完成予定）、リフトは2026年から3年間で更新する予定とのことです。リフト券も今年からオートゲートを導入しICカードになるとのことです。詳しいことは、今月末の説明会で聞けるとは思いますが、学童クラブや一般受講者からの期待もありますので、指導員の皆様のご協力を宜しくお願いします。

渡邊新常任理事紹介

『常任理事及び副理事長』を受けてしまいました 大平原 SC 渡邊公平



7月5日に開催された第24回総会での新役員選考において、新人常任理事として任命をいただきました。さらには、三浦理事長の補佐役として副理事長の役職まで追加され、それまでの道技術部副部長兼全国ブロック技術部員の任務に加えて2倍、3倍の重責を背負ってしまい身動きがとれないのでは、との不安な状況となりました。

今年3月末で48年間のフルタイム勤務から解放された心身の隙間を、前役員にしっかりと捕まえられ、強い拒絶が言えない気弱な性格のために逃れることもままならず、引き受けてしまいました。

これまで、理事として、また技術部担当として、スキー技術の伝達役や指導員検定受検者の皆さんの支援を主体に、自分のできる範囲での役割は果たしてきたとの思いがあります。

でも今後しばらくは、北海道スキー協の運営にも関わっていくことになるのかと思うと、この「新役員の前向きな抱負」を書くべき原稿用紙を前にしているだけでも、腰がへなへなとしちゃっています。

もうこうなったら、今年のむし暑い夏をビールで思いっきり吹き飛ばしつつ、手当たり次第の助けを強引にたぐり寄せながらやるっきゃないかと、腹をくくることにいたしました。

そう考えると、副理事長としては、長年の経験と高い運営力、リーダーシップ、コミュニケーション能力を持ち、さらには上級指導員資格を取得したばかりの三浦裕子理事長の背中を影ながら支えていれば良い役割だと思うし、常任理事の役割もとりあえず毎月一回のZOOM常任理事会の夜だけ晩酌を止めれば良いだけだし、スキー技術伝達や指導員検定受検者の支援にしても極めて有能な五十嵐佳葉技術部長を筆頭に藤井隆幸氏、宮腰大氏の2人の全国デモも控えているし、優秀な道技術部員も多くいるわけだし、こりゃけっこう何とかこなしていけるかもしれないな、と思った次第です。

まさか70歳過ぎてから道スキー協役員名簿の上位に記載されるとは思ってもいりませんでした。多くの強力な留任役員さんや元気いっぱいの新役員さんがいらっしやるので、気を大きくして任を果たすべく頑張ろうと、決意いたしました。皆様、くれぐれもよろしく願いいたします、ね……。

お知らせです

クラブに今回同梱及びホームページに記載在り

【教育部より】

指導員受検をお考えの方へ「2025～26 シーズン/指導員検定マニュアル」を作成しました。

11月16日（日）の指導員養成理論から行われます。マニュアルを参考に計画的に取り組みましょう。

【財政部より】

2026年度の会費納入受付は既に始まっています(規約では前納)。会費未納クラブは納入をお急ぎください。

【シンポジウム実行委員会より】

スキーシンポジウムを11月2日（日）札幌市民交流プラザ（北1西1）控室402にて開催します（オンライン同時開催予定）。

午前の部は、「スキー協の活動、組織運営と指導員の役割」「スキー技術と指導法」「指導員規定」

午後の部は、「まだまだ滑り続けるために！ケガしにくいカラダの整え方～骨盤・股関節の使い方を見直し、安全で快適なスキーシーズンへ～」理学療法士 成田悟志氏

指導員は理論研修扱となります。詳細が決まり次第ご案内いたしますので、よろしくお願いします。

【安全対策部より】

2025～26 シーズン「賠償保険」と「傷害基金・救出基金」の申し込み受付中 11月5日（水）必着